

作物名 **たまねぎ** (ユリ科)

J A 2022 版

標準作型

○印・播種(種まき)

△印・定植

□印・収穫

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露 地 マルチ				□					○○		△	△

**栽培のポイント**

排水の悪い畑は避けたほうがよい。完熟堆肥を主体に土作りを行う。

**品 種** ソニック (タキイ)：早生品種の定番。球色は黄褐色。貯蔵限界は8月下旬まで。  
七宝早生7号 (七宝)：早生品種では品質が良い。球色は黄。貯蔵限界は8月下旬。  
ターボ (タキイ)、もみじ (七宝)：中生品種で球色は褐色。貯蔵限界は12月末まで。  
湘南レッド：サラダ用赤タマネギで、球色は赤紫色。貯蔵限界は9月頃まで。

**畑の準備** 堆肥は完熟牛糞堆肥を1aで200kg施用する。苦土石灰は過去1年以内に施していないときは、1aで10～15kgを土になじむように、種まきの半月以上前に畑(本圃)全体に施す。

**元 肥** 元肥を定植の10日前までに全面に施し、土と良く混和しなじませておく。  
(1a当たり使用量)

ジシアン有機化成S806号	マルチ 15 kg 露地 10 kg	定植前
苦土重焼燐1号	3 kg	

**定 植** 時期は11月中下旬に定植する。苗は茎の太さが6<sup>ミリ</sup>・長さ20<sup>センチ</sup>程度のものが適しているが、太く長い苗は抽台しやすいので年明けに定植し生長を抑えるようにする。  
・マルチを使う 黒マルチ9515B(株間15<sup>センチ</sup>、条間15<sup>センチ</sup>)・苗本数3,200本/a  
・マルチを使わない 1条植え(うね幅55<sup>センチ</sup>、株間8<sup>センチ</sup>)………苗本数2,200本/a  
※苗は根が見えない程度の深さに植えるようにし深く植えない。

**追 肥** 露地栽培の場合は2月中旬に行う。追肥時には土寄せ等の土を動かす事は絶対に行わない(タマネギの根は浅く広がっているのでクワ等を使うと根を切ってしまう)。  
(1a当たり使用量)

NK化成2号	露地 4 kg	2月下旬
--------	---------	------

**病虫害防除** 苗床では、ネキリムシ類による被害が発生する。夏場に苗床予定地の除草を徹底し、粒剤の施用で防除する。また、べと病の予防的防除を行う。  
本圃では、定植前後に必ずべと病の予防散布を行い、3月にもべと病の防除を行う。降雪のある年は灰色かび病の予防、3月以降に多雨の年は軟腐病の防除を行う。  
その他、病害では黒斑病、さび病、白色疫病、虫害ではアブラムシ類、ネギアザミウマ、タマネギバエなどが発生する。タマネギバエは未熟堆肥の施用で発生するので、タマネギに用いる堆肥は必ず完熟牛ふん堆肥を用いるとよい。

**収 穫** 4月下旬～6月頃に茎の部分から倒伏し始めた頃が収穫の適期となる。